



活力ある超高齢社会を共創する グローバル・リーダー養成プログラム

東京大学

高齢社会総合研究機構、【工学系研究科】社会基盤学専攻、建築学専攻、都市工学専攻、機械工学専攻、精密工学専攻、化学システム工学専攻、先端学際工学専攻 【人文社会系研究科】社会文化研究専攻 【教育学研究科】総合教育科学専攻、学校教育高度化専攻 【法学政治学研究科】総合法政専攻 【総合文化研究科】広域科学専攻 【農学生命科学研究科】生産・環境生物学専攻、応用生命化学専攻、水圏生物科学専攻、農業・資源経済学専攻、生物・環境工学専攻、応用動物科学専攻、獣医学専攻 【医学系研究科】社会医学専攻、生殖・発達・加齢医学専攻、外科学専攻、健康科学・看護学専攻 【新領域創成科学研究科】先端エネルギー工学専攻、メディカルゲノム専攻、人間環境学専攻、社会文化環境学専攻 【情報理工学系研究科】知能機械情報学専攻

2013年9月20日

東京大学の行動シナリオを具体化する大学院教育改革として

東京大学の行動シナリオ

【知の公共性と国際性】

知の公共性を担い、研究と教育を通じて、より豊かで安定した社会構築に貢献する。世界の学術のトップを目指す教育研究のプラットフォームとして、国際的な存在感を高める。

【真の教養を備えたタフな学生】

国際的な広い視野を有し、強靭な開拓者精神を持ちつつ、**公共的な責任**を自ら考え、行動する、**世界水準の**人材を育てる。

【知の共創】

連環する大学の知と社会の知
社会と協力して、新しい知とイノベーションを生み出す構造を開拓し、身近な地域から諸外国に至る多様なパートナーと連携する拠点として進化していく。

「活力ある超高齢社会の共創」は世界的に最も重要な課題。

2006年高齢社会総合研究機構(IGO)を全学横断的組織として総括プロジェクト機構の下に設立。

2009年度からは恒常組織として活動し、全学横断的学部講義を実施する他、産官学民協働研究、国際連携活動、市民啓発活動等を実施中。

IGOを中心として本学9科30専攻による分野横断的教育体制・産官学民連携体制・国際連携体制により、活力ある超高齢社会を共創する世界的な取り組みのリーダーとなる人材を育成する。

高齢社会に関する高度な専門研究能力、俯瞰的横断的理解力、(フィールド演習等による)実践的課題解決能力、の3つの能力を併せ持つ人材を育成(=大学院教育改革のモデル)。

本プログラムは、自治体・企業、海外の大学・企業等と連携し、実社会の要請に即した研究活動を通じて、新たな知と、実社会の真のニーズに応える新たな技術やデザインを生み出し、ジェロントロジーに関する世界の3大拠点の中心に進化していく。

柏市の超高齢社会対応モデルまちづくり、被災地の復興まちづくり、産学連携共同研究等を開拓し成果を蓄積中。

本プログラム卒業生の持続的に進化するキャリアパスのイメージ



- 【第1段階】民間企業・公的機関等のスペシャリストとして高齢社会問題に取り組む専門家チームの一員として活躍
- 【第2段階】分野横断的専門家チームのリーダー(ディレクター)として活躍
- 【第3段階】世界の高齢社会問題政策の展開を主導する世界的なリーダーとして活躍

活力ある超高齢化社会を共創する
グローバル・リーダー養成プログラムを全学支援

1. 本プログラムの背景と目的

1.1 超高齢社会の到来

- 日本は世界一の高齢社会：
2030年、3人に1人が65歳以上、
2060年の高齢者比率は約40%
に到達。
- アジア各国も急速に高齢化：
韓国・シンガポールは2040年、
中国も2060年には高齢者人口が
1/3に。
- 日本は高齢化最先進国：
超高齢社会は世界の歴史に先
例のない未知の領域。この分野
の政策を開拓し世界をリードす
る責務。

図1-1-4-(1) 高齢化の推移と将来推計

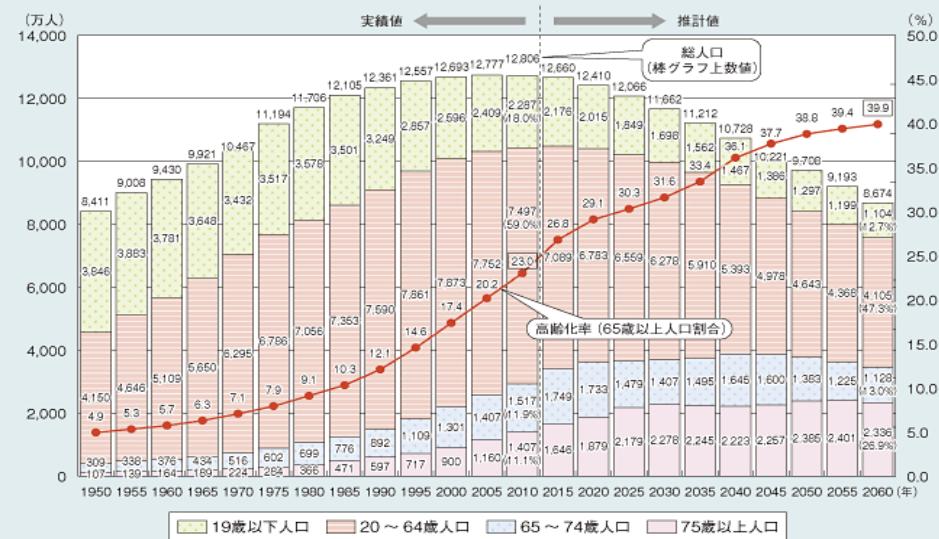
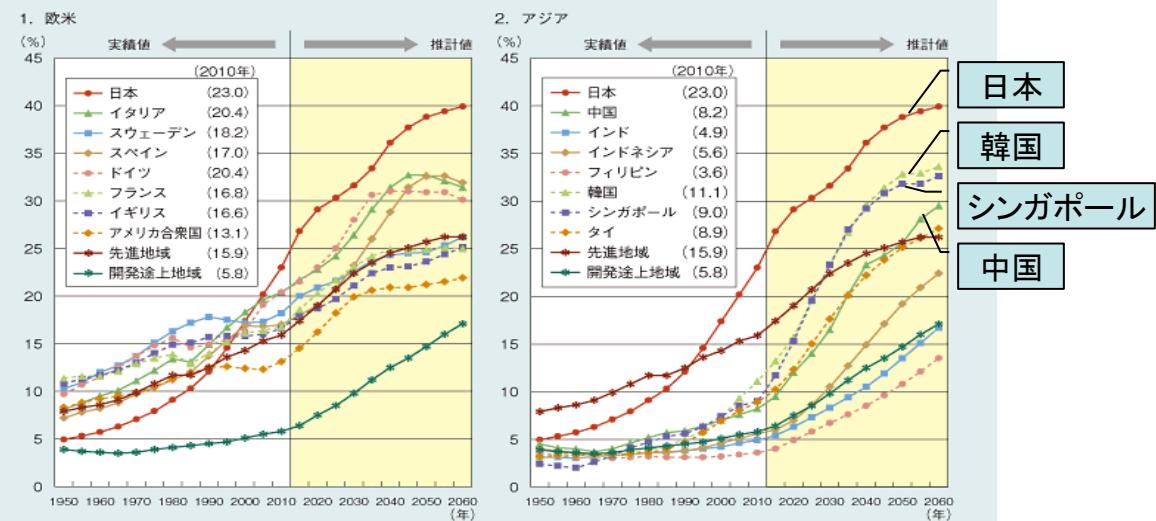


図1-1-13 世界の高齢化率の推移



1.2 課題：活力ある超高齢社会＝健康長寿社会を創ること

- ① 高齢者の健康自立期間を延ばし、社会参加を促し、高齢者も社会の支え手とする、社会システムを実現すること。
 - ・ 要介護期間を最小化・自立的期間を最長化すること：予防医学・介護予防・健康づくり活動・食の問題
 - ・ 引きこもりを防ぎ社会参加を促すことが健康寿命を延ばす鍵：コミュニティ活動・いきがい就労・社会参加
- ② 高齢者の活動レベルが低下して介助が必要になった場合でも、施設に収容するのではなく、住みなれた地域社会の中で、できるだけ自立的に、活力を維持しながら暮らせる、社会システムを実現すること。
 - ・ 地域包括ケア：在宅介護・在宅医療のシステム
 - ・ 心身が多少弱っても地域で暮らせる生活環境（すまい/まちづくり・生活支援システム）

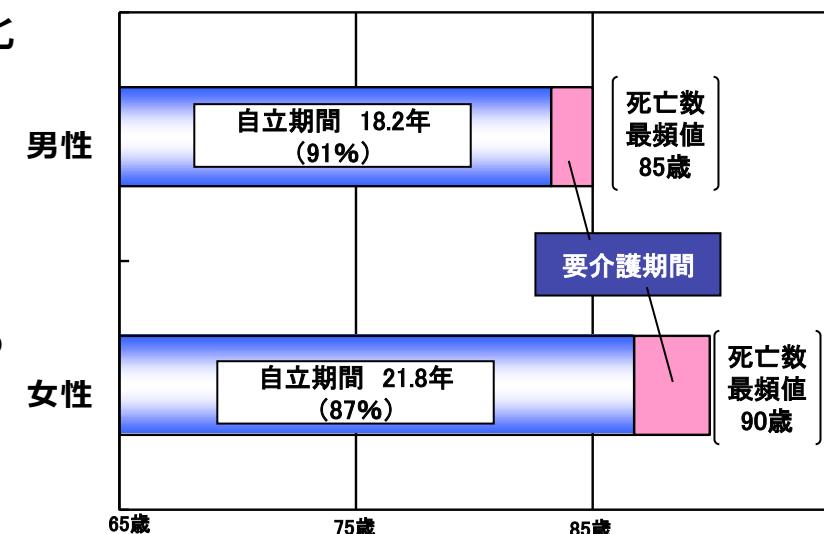
○人生90-100年時代の到来／高齢者のアクティビ化

10年前(1992年)と今(2002年)の高齢者の通常歩行速度を比べてみると、男女ともに11歳若返っている！
(ex.今の75歳は昔の64歳！)

○高齢者は孤立化し家に引きこもると虚弱化してしまう

○高齢者が外に出て体を動かし人と交流し社会参加できる地域社会をつくることが健康寿命を延ばす鍵

ケア体制の整備も重要だが、要介護期間を最小化し健康自立期間を最長化し、高齢者の活力を積極活用する社会を構築することが最優先の課題



※死亡時年齢最頻値(厚生労働省「完全生命表(2005年)」)－65歳より算出
資料：平成12年版厚生白書(「保健医療福祉に関する地域指標の総合的開発と応用に関する研究」；平成9年度厚生科研費補助研究事業)をもとに作成

1.3 本プログラムの目標

日本・世界各地の現場で、多様な分野の専門家・市民と共に「活力ある超高齢社会を共創する」取組を主導する、実践的課題解決能力を備えた、高齢社会問題の高度専門家を育成すること。

なぜならば…

- 高齢化最先進国の日本は、高齢化率が1/3になる2030年代までに、世界に先駆け、活力ある超高齢社会を構築する必要
 - ・ しかも、日本では、現に、被災地の復興において「高齢者標準」の地域社会を構築する取り組みを遂行中(東京大学・高齢社会総合研究機構(IOG)等も大槌町等で現に取組中)
- 活力ある超高齢社会を実現するためには社会システム全体を総合的に組み替える必要 → 分野横断的なアプローチが必要
 - ・ 医療・介護等のケアサポートシステム、生活サポートシステム、食生活スタイルやライフスタイル、ワーク・ライフ・バランス、家族と子育てのあり方、すまいと地域社会の居住環境・社会環境、公共交通など都市的インフラ、社会保障制度を含む制度的インフラ、等々を抜本的に改善・再編成し、社会システム全体を総合的に組み替える必要
- 先例のない未知の世界を開拓する必要性
 - ・ 分野横断的俯瞰力と専門的創造力、実践的課題解決能力を兼ね備えた人材(チームプレイのできるスペシャリスト)が分野横断的専門家チームを組んで取り組む必要
 - ・ こうした高度な能力を備えた人材養成には、最短でも修士・博士一貫の5年間の教育期間が必要
 - ・ この若きスペシャリストが、将来的には、分野横断的専門家チームを主導するディレクターとして、さらに、社会全体のリデザインを主導する世界的リーダーに進化する必要

2. プログラムの概要

プログラムの概要

9研究科・30専攻等の有機的連携体制

高齢社会総合研究機構 【工】社会基盤学専攻、建築学専攻、都市工学専攻、機械工学専攻、精密工学専攻、化学システム工学専攻、先端学際工学専攻 【人・社】社会文化研究専攻 【教】総合教育科学専攻、学校教育高度化専攻 【法】総合法政専攻 【総合文化】広域科学専攻 【農】生産・環境生物学専攻、応用生命化学専攻、水圈生物科学専攻、農業・資源経済学専攻、生物・環境工学専攻、応用動物科学専攻、獣医学専攻 【医】社会医学専攻、生殖・発達・加齢医学専攻、外科学専攻、健康科学・看護学専攻 【新領域】先端エネルギー工学専攻、メディカルゲノム専攻、人間環境学専攻、社会文化環境学専攻 【情報】知能機械情報学専攻

質保証:評価のシステム

- QE1: 学業成績の他、F演習とコアセミナーを通じて適性を評価
- QE2: 修士研究の発表討論を通じた専門的研究能力の評価・研究室選択の助言
- QE3: 研究計画の評価による博論着手資格審査
- 博論審査: 学外審査員を含む公開審査会

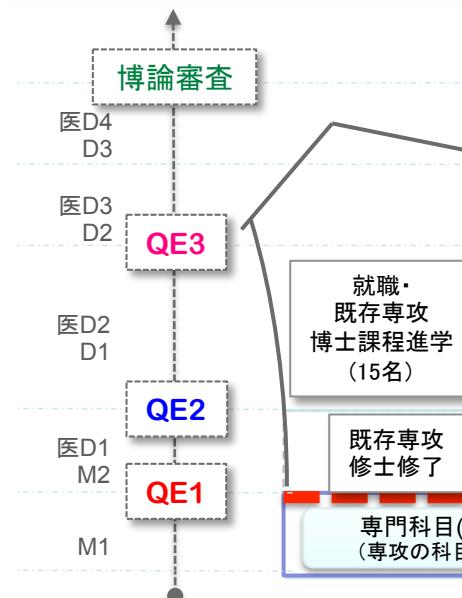
カリキュラムの特色

- F演習: 3タイプのフィールド演習: コミュニティアクション演習/ケアシステム実習/インターンシップ型共同研究
- G演習: グローバル演習「英語によるコミュニケーションとプレゼンテーション」「国際共同ワークショップ・スタジオ」
- Cセミナー: 1年次～5年次まで横断科目として継続して行われる横断型コアセミナーを通じた研究指導

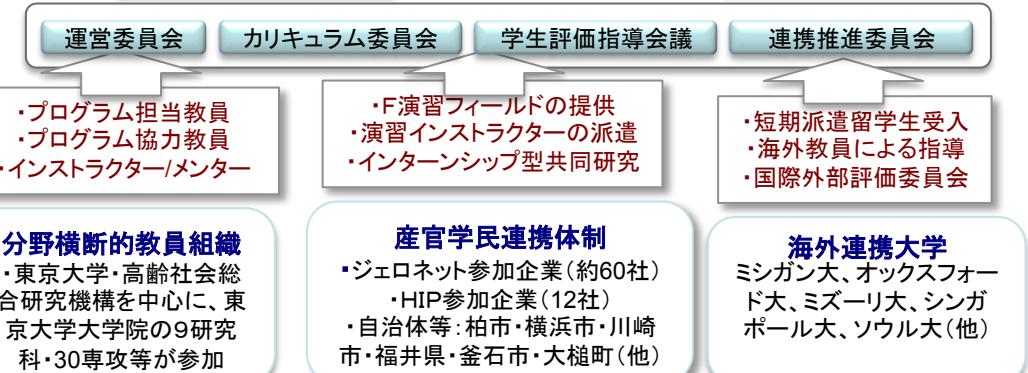
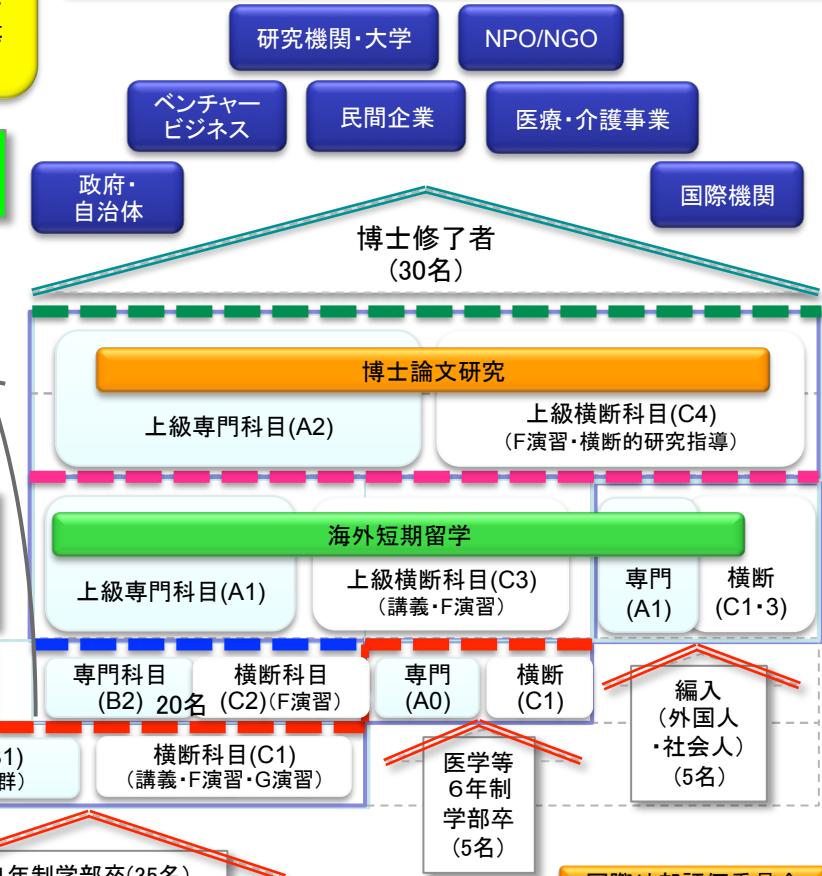
参加学生はプログラムの全面的サポートに支えられ所属専攻において高齢社会問題解決に資する博士研究に邁進

活力ある超高齢社会を日本・世界で共創するグローバル・リーダーを、東京大学・高齢社会総合研究機構を中心に東京大学の9研究科30専攻等が総力をあげて養成

各専攻の博士の学位に付記:
「高齢社会総合研究プログラム修了」



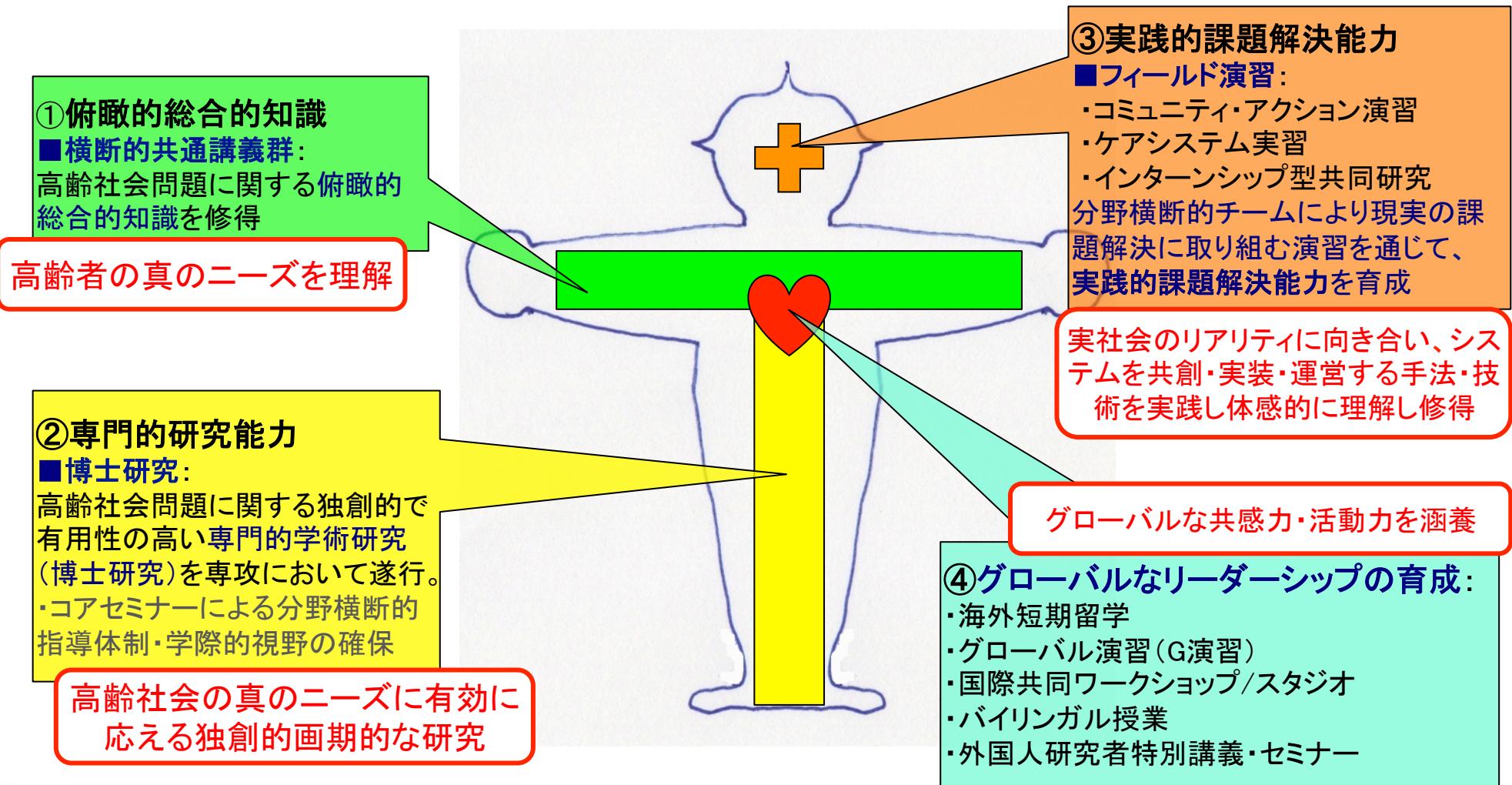
多様なキャリアパス
超高齢社会を共創する取組を主導するリーダーとして活躍



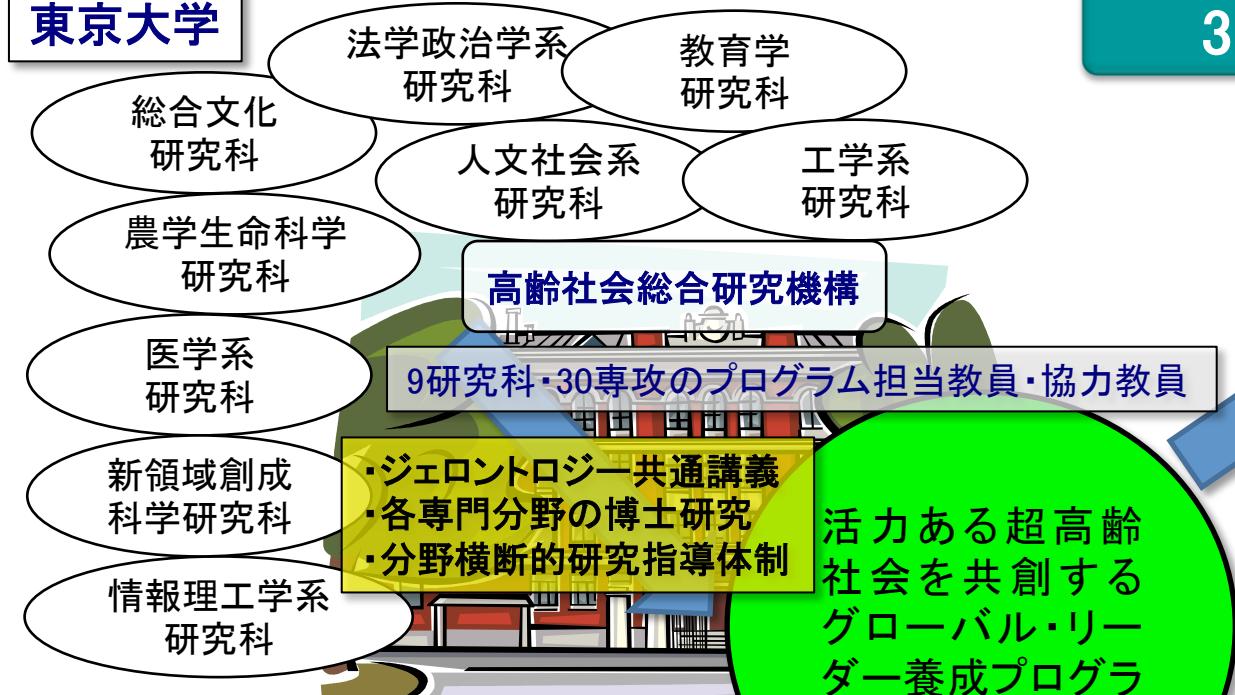
3. 育成すべき人材像と カリキュラムの特色

3.1 育成すべき人材像とカリキュラムの関係

【育成すべき人材像】 活力ある超高齢社会を共創する能力、すなわち、高齢社会問題に関する俯瞰的総合的知识と、特定分野における専門的研究能力に加え、分野横断的専門家チームを率いて課題解決に取り組む能力を備えた、博士レベルの人材(T+型人材)。



3.2 プログラムの推進体制



地方自治体連携活動
柏市、横浜市、川崎市、福井県、釜石市、大槌町 他

地域連携型フィールド演習

例)

- ・柏市豊四季台地域まちづくり
 - 生きがい就労プロジェクト
 - 多職種連携型地域包括ケアシステム
 - 交流コミュニティスペースづくり
 - 被災地における復興まちづくり

産学連携活動(ジェロネット他)

自動車・機械メーカー 6社
電機・精密機械メーカー 8社
食品・生活用品・ヘルスケアメーカー 15社
流通・外食・総合商社 2社
建築・不動産・住空間 5社
IT・情報通信 3社
金融 3社
医療・福祉機関 2社
マーケティング・コンサルタント 10社
その他 8社

海外短期留学制度
国際共同スタジオ、国際共同WSなど

インターンシップ型共同研究

3.3 横断的共通科目群の構成

横断的共通科目群：12単位(講義8単位・演習4単位)以上の取得が必要

【ジェロントロジー共通講義】（総論と以下の5分野で構成）

- ・ 高齢者的心と体
- ・ ケア・システムと福祉制度
- ・ 高齢社会のコミュニティ・マネジメント
- ・ 高齢社会のすまいとまちづくり
- ・ ジェロテクノロジー：高齢者のニーズに応えるテクノロジー

【フィールド演習】 分野横断的チームで現実の課題解決に取り組むフィールド演習(F演習)

- ・ F1: 分野横断的チームを組んで地域社会の現実の課題に取り組むコミュニティ・アクション型(地域連携)
- ・ F2: 企業・行政等の現場で先端的課題に取り組むインターンシップ型(产学連携)
- ・ F3: 多様な高齢者や市民に寄り添い心を通わせるケア・システム実習型(対人ケア実習)
- ・ 演習指導には、企業・行政等の現場の実務家をインストラクターとして招請

【グローバル・リーダーシップ能力育成のための科目】

- ・ G演習：「英語によるコミュニケーションとプレゼンテーション」
- ・ 海外短期留学制度
- ・ 国際共同ワークショップ・スタジオ
- ・ バイリンガル授業・外国人特別講義/セミナー

【コアセミナー】

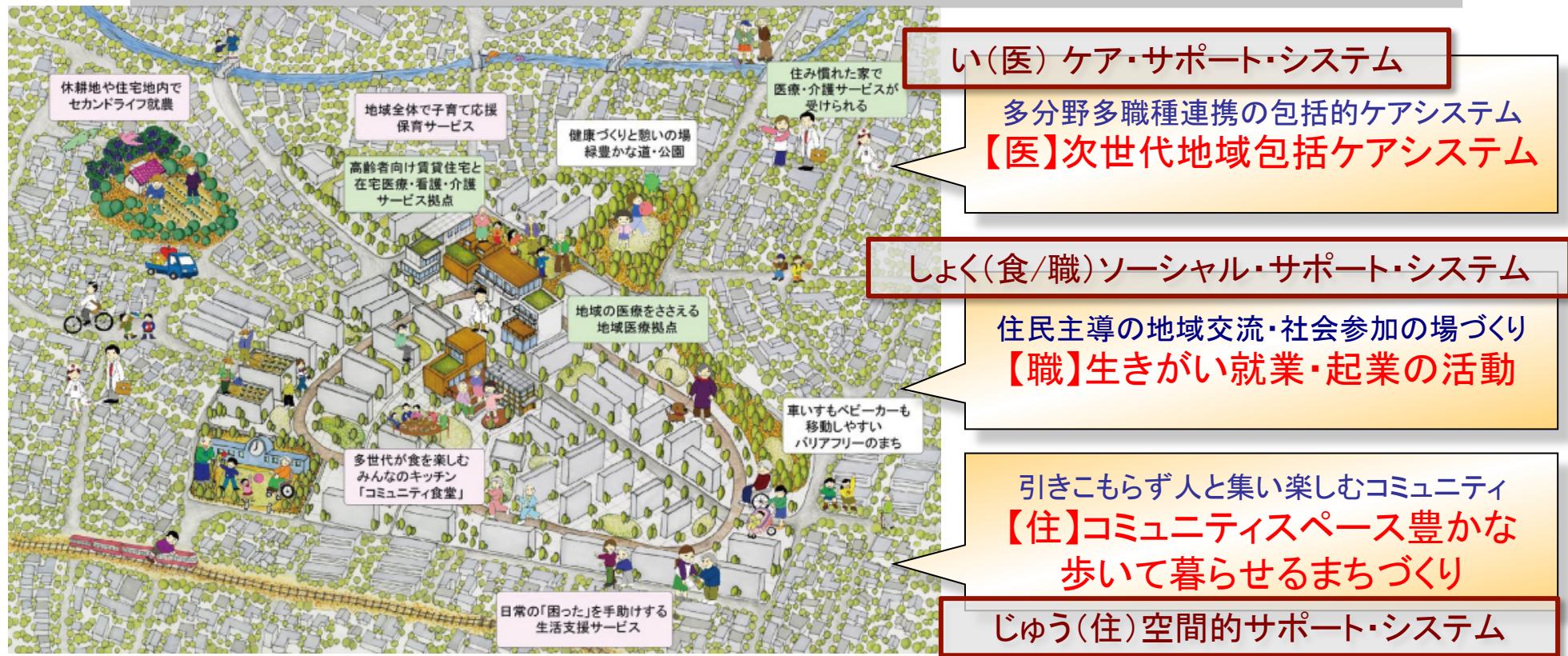
- ・ 他分野の教員やインストラクター、学生等による分野横断的なディスカッションの場を通じて学際的な研究指導の体制を確保（毎学期実施：QE・学位論文評価に反映するため事実上の必修科目）

3.4 産官学民連携による フィールド演習実施の体制

フィールド演習の具体例：柏市・豊四季台地域のまちづくり

- 東大IOG-柏市-UR都市機構の共同事業(2009年度～)
- 柏市豊四季台地域をフィールドにした超高齢社会対応のモデル地域開発

**目標⇒「Aging in Place」コミュニティの実現
超高齢社会対応コミュニティ環境の3要素に応じた3つのサブプロジェクト**

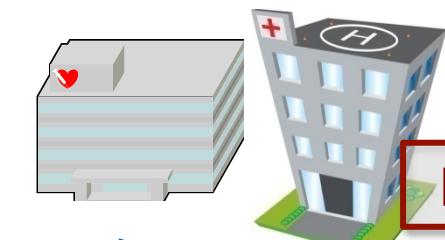


【医】多分野多職種連携地域包括ケアシステムの構築

い:ケアサポート

柏市における在宅医療を推進する6つの事業

事業⑤在宅医療の啓発



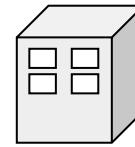
短期受入れ



住まい

戸建・UR賃貸・
民間分譲住宅等

事業⑥サービス付き
高齢者住宅の建設



東大柏キャンパス

- ・教育研修企画・運営
- ・主治医・副主治医モデル等の実証研究

退院

事業②在宅医療研修システム

副主治医

(在宅療養支援診療所)

- ・補完的訪問診療

主治医

- ・訪問診療

グループ化した医師

事業③情報共有システム

多職種連携



ケアマネ 他



訪問看護

事業①地域医療拠点の整備

- ・主治医・副主治医・看護・介護サービスの調整
- ・多職種が集う場
- ・情報システム運営管理
- ・研修スペース
- ・市民相談・啓発スペース

相談・啓発

訪問診療・在宅ケアの提供

F2:ケアシステム実習の場として

F1:コミュニティアクション演習の場

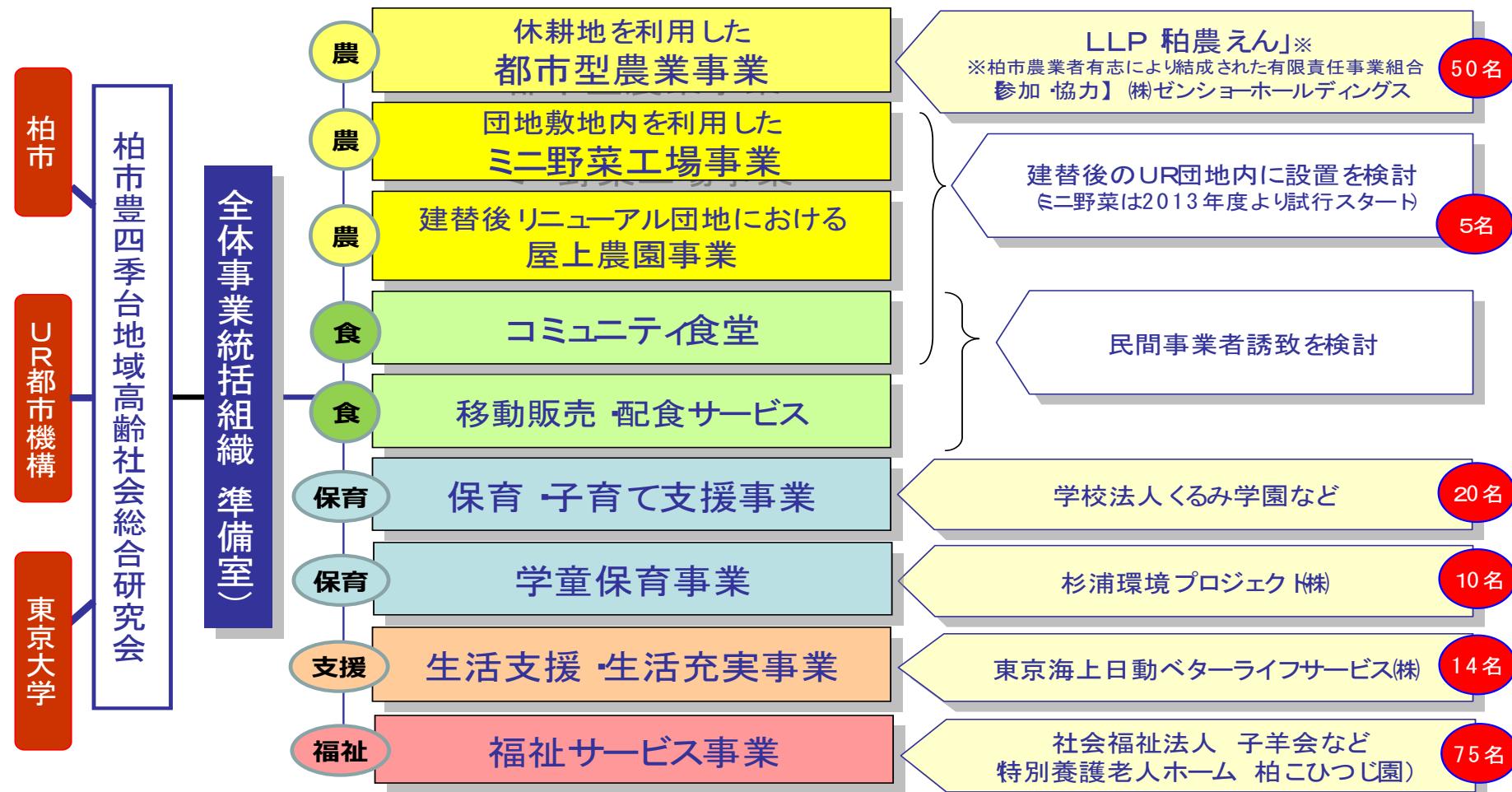
コーディネート

【職】生きがい就業・起業活動

F1:コミュニティ・アクション演習の場として

食/職:ソーシャル・サポート

4領域6事業を開拓。のべ174名の生きがい就業者の雇用を実現！
(屋上農園と食事業は事業構想を策定。2014年度事業開始予定)



～様々な新たなコミュニティ・ビジネスの場で活躍するシニア世代～



II

被災地における仮設・復興まちづくり支援活動

(い・しょく・じゅう)総合的コミュニティ環境改善プログラム



大槌町庁内に仮設住宅特別PTを設置し東大IOGと連携して環境改善を推進

43仮設団地自治会の代表者会議を設置、住民と協働で環境改善を推進

岩手県大槌町では、医学・工学・社会学分野の学生・教員が分野横断的チームを組んで、自治体・住民と協働で、超高齢社会を包摂するコミュニティの社会的・空間的環境の改善に取り組み中。

学生の研究モチベーション・他分野についての理解・チームワーク能力が高まり、学生の力が飛躍的に向上。
(現在D3の学生はこの成果により総長大賞を受賞)



- 住民自身による住環境点検活動：住環境について住民が問題を共有し改善策を話し合うことからコミュニティの交流が始まる。重要な課題は行政に改善を要請。住民自助・共助で改善できることについては改善手法をわれわれ専門家が提案→「仮設住宅住みこなし通信」(月刊)を全戸配布。
 - 住民交流・住民活動促進のための交流会を開催。居住環境問題だけでなく社会的環境・共助的ケア体制についても改善。
 - コミュニティの社会的交流度と住民のQoLを測る調査、健康づくり活動の展開、コミュニティビジネス展開への支援。



F1:コミュニティアクション演習の場として

住環境点検マップの例

III 産学連携活動: ジェロントロジー・ネットワーク(62社参加)による活動

F3: インターンシップ型共同研究の場として活用

現在8つの共同研究チームが活動中。来年度に向けて研究チームを倍増することを計画中。

WG2

「ジェロントロジー住宅」グループ



WG3

「未来の移動・交通システム」グループ



WG4

「ICT×シニア×まちづくり」グループ



WG8

「高齢者の生活ニーズ・ライフデザイン」グループ



8A

ジェロントロジー情報共有・啓発グループ



8B

団塊世代のライフデザイン研究グループ

8C

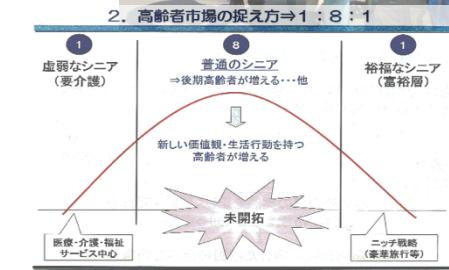
シニアと家族のニーズ顕在化研究グループ

8D

女性のライフデザイン研究グループ

8E

高齢者の就労関連事業創造グループ



ジェロントロジー・ネットワーク参加企業一覧(2013/3)

No.	業界区分	参加企業名	No.	業界区分	参加企業名
1	自動車 機械メーカー	(株)ジェイテクト	32	建築 不動産 住空間	(株)荒井商店(アライブメディケア)
2		スズキ(株)	33		大和ハウス工業(株)
3		トヨタ自動車(株)	34		(株)ミサワホーム総合研究所
4		日産自動車(株)	35		三井不動産(株)
5		八千代工業(株)	36		(株)LIXIL
6		ヤマハ発動機(株)	37		(株)イトーキ
7	電機 精密機器メーカー	沖電気(株)	38	IT 情報通信	(株)NTTドコモ
8		GEヘルスケア・ジャパン(株)	39		大日本印刷(株)
9		シーメンス・ジャパン(株)	40		富士ソフト(株)
10		日本電気(株)	41	運輸	東京急行電鉄(株)
11		パナソニック(株)	42	素材	新生紙パルプ商事(株)
12		(株)日立製作所	43		(株)地球快適化インスティテュート(三菱ケミカルHG)
13		富士フィルム(株)	44		デュポン(株)
14		(株)リコー	45	金融	西武信用金庫
15		味の素(株)	46		野村證券(株)
16		江崎グリコ(株)	47		(株)みずほ銀行
17		MSD(株)	48	医療 福祉機関	(株)フレアス
18		花王(株)	49		ヘルスケアパートナーズ(株)
19		サンスター(株)	50		イーソリューションズ(株)
20	食品 生活用品 化粧品 ヘルスケア用品メーカー	サントリー食品インターナショナル(株)	51		コンパッソ税理士法人 東京事務所
21		サントリービア&スピリッツ(株)	52		(株)積水インテグレーテッドリサーチ
22		(株)資生堂	53		(株)TMJ
23		(株)ニチレイフーズ	54		(株)ファンケルスタッフ
24		ネスレ日本(株)	55		(株)富士通総研
25		ハウス食品(株)	56		(株)メディシンク
26		ユニ・チャーム(株)	57		(株)ユーディット
27		ライオン(株)	58		(株)リサーチ・アンド・ディベロPMENT
28		アンファー(株)	59		(株)コンポン研究所
29		日本ハム(株)	60	UR都市機構 寄付/支援企業	UR都市機構
30		(株)ゼンショウ	61		(株)セコム
31	流通 外食 総合商社	三井物産(株)	62		日本生命保険相互会社/(株)ニッセイ基礎研究所

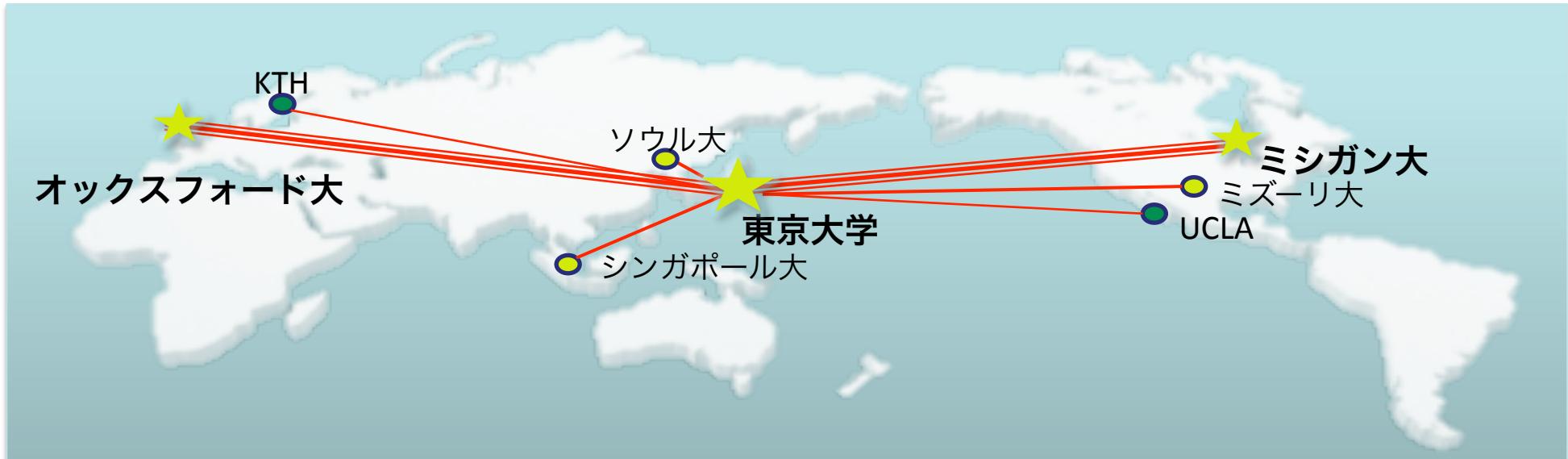
※青字 2011年度より参加(16社)、赤字 2012年度より参加(12社)

順不同 計62社)

3.5 グローバルに活躍する リーダーの養成体制

3.3 グローバルに活躍するリーダーを養成する体制(1)

■高齢社会総合研究に関する世界トップの教育研究拠点を形成し、アジア（東京大学）、北米（ミシガン大）、EU（オックスフォード大）の3極の拠点による世界連携体制を構築する



■海外短期留学制度

原則として全学生を第3年次（医学系等4年制博士課程にあっては第2年次）の夏休み（8月）から冬学期の間、6ヶ月以内の海外短期留学に派遣する。海外短期留学については海外短期留学旅費を支給する。

- ・ **ミシガン大学**: 1学年30人の博士後期課程学生のうち20人がミシガン大学においてジェロントロジー・コースを1学期間履修することを想定：ミシガン大学には本プログラムの海外連絡オフィスを開設しスタッフを常駐させる
- ・ **ミズーリ大学**: 主に高齢社会問題について法学分野の研究を遂行する学生を想定
- ・ **オックスフォード大学**: 海外企業等でのインターンシップ型留学や、自身の専門分野に強い大学への留学を希望する学生については、予備的留学先としてジェロントロジー・サマースクールに派遣
- ・ **アジア地域**における高齢社会問題を研究したい学生のためにはシンガポール大学、ソウル大等と連携
- ・ その他: 上記に限らず、学生は、博士研究のテーマに適した留学先に留学することができる。
- ・ 海外短期留学には、大学への留学だけではなく、海外の企業等におけるインターンシップ型留学を含む。

3.5 グローバルに活躍するリーダーを養成する体制(2)

■グローバル演習：英語によるコミュニケーションとプレゼンテーション（論文作成と口頭発表）演習（G演習）の履修を必修化

■バイリンガル授業

- ・講義は原則として英語で行う
- ・フィールド演習等においては、外国人学生・教員とのグループワークを促進する。
- ・コアセミナー、リトリート・セミナー（合宿セミナー）においては、日本の学生・教員、外国人の学生・教員全員が英語でインテンシブな意見交換と討論を行う。

■国際共同スタジオ・国際共同セミナーの開催

■国際学会等発表旅費：国際学会等における学生の研究発表を促進するため、国際学会等発表旅費を支給する。

■「交流ライブラリースペース」の整備

ジェロントロジーに関する分野横断的な知識・情報を総覧し、本プログラムに参加する多分野・多国籍の学生・教員が日常的に交流し議論する場ともなる「交流ライブラリースペース」を整備

■外国人留学生向け学習奨励金

優秀な外国人学生を獲得するため、国費奨学金の給付のない外国人学生については修士課程であっても国費留学生に準じた十分な学習奨励金を給付する。

4. 育成する人材とキャリアパスの例

【事前質問事項】

○本プログラムが従来のアカデミア養成ではなく、産業界等においてグローバルに活躍できるリーダー養成に向けたプログラムであるということが、申請プログラムに参画する全ての研究科・専攻の教員や企業等の間で、理解の共有がなされ、プログラムの確実な実施に向けた具体的な調整が進んでいるのか。また、申請プログラムにおいて、グローバルリーダーとして、具体的にどのようなキャリアパスを考え、その確立に向けての調整を進めているのか。

4. 育成する人材とキャリアパスのモデル

職能タイプ	学生時代(博士研究)	スペシャリスト時代(~40歳)	ディレクター時代(~55歳)	グローバル・リーダーのモデル
ジェロントロジー・サイエンティスト	ゲノム解析・ビッグデータ分析等により、高齢者の身体的特性の民族的相違を把握した上で「 アジア人の健康長寿に適した食生活のスタイル 」を明らかにする	グローバル食品企業の研究開発部門において、アジア人向けの新しいサプリメントや、高齢者向食品を研究開発	スピナウトして、食を通じた健康づくりに関する国際的ベンチャー企業を創設	高齢者のニーズに応える新会社を起業し世界的企業へと展開。 ex. 高島宏平氏 : (オイシックス社長)
ライフサポート・エンジニア	産学協同研究を通じてマルチセンシングと人工知能を応用した自動緊急事態検知・通報機能を備えた「 安全安心インテリジェント住宅 」の基本技術を開発	ハウジング・メーカーの研究開発部門に入社し、「安全安心インテリジェント住宅」システムを実用化	同企業の研究開発部門のディレクターとして、次世代の健康長寿住宅の体系的包括的な研究開発を主導	超高齢社会向けの市民活動を支援する国際的支援団体を組織。 ex. ムハマド・ユヌス氏 : (マイクロクレジット創始者・ノーベル平和賞)
ケアシステム・ディレクター	地域におけるサポートセンターの試行実験を踏まえ、実効性のある「 要介護以前の高齢者サポートシステム 」のプロトタイプを開発	大手介護事業者の企画部門において、某県における多目的コミュニティサポートセンターの展開を企画・推進	地域における健康づくりの経験を踏まえ、大学に戻って健康づくりのシステムを深化させる教育研究に従事	世界各国の都市において超高齢社会対応の都市づくり・まちづくりの計画・デザインを指導。 ex. ヤン・ゲール氏 : (都市デザイナー) ジャイメ・レルネル氏 : (元クリチバ市長)
ソーシャル・ビジネス・コーディネーター	被災地復興におけるシニア層によるコミュニティ・ビジネス起業を支援する活動経験を踏まえ、「 コミュニティ活動のファシリテーション 」の新しい方法論を体 system 化	大手ICT企業の下で、コミュニティ・ビジネス起業をサポートするソーシャル・ネットワーク・サービス子会社を設立・運営	スピナウトして、コミュニティ活動コーディネーターを育成し、地域のコミュニティ活動を支援するインターミディエトリNPOを創設	国際機関において世界の高齢社会政策の展開を主導 ex. 緒方貞子 氏 狩野恵美 氏 (WHOテクニカルオフィサー)
まちづくりプランナー/デザイナー	連携地域における社会実験を通じ、高齢者を引きこもらせずコミュニティにおける交流活動に誘い出す「 人の集うコミュニティースペースの整備方式 」を体 system 化	自治体のまちづくり部門の職員として、同市のまちづくりの企画調整推進にあたる	公務員を辞職し、独立の「 まちづくりコンサルタント 」を開設。学界・協会のオピニオンリーダーとして活躍。55歳で某市の市長となる	
制度/政策デザイナー	各国の高齢者関係法の現状を調査し、「 高齢者法の国際比較研究 」を博士論文としてまとめる	国家公務員(厚労省)として高齢者基本法および関連法の創設・利保護を推進するための政策改正を担当。その後、国際機関に出向	公務員を辞職し、高齢者権利保護を推進するための政策改正を担当。その後、国際機関シンクタンクを設立。その後、政治家として国政に貢献	

* なお、本プログラム参加30専攻の博士課程修了者の就職先の70%(180人/255人)は大学以外の企業や公的機関等である(2012年度修了者実績)

活力ある超高齢社会を共創する グローバル・リーダー養成 プログラム (東京大学)

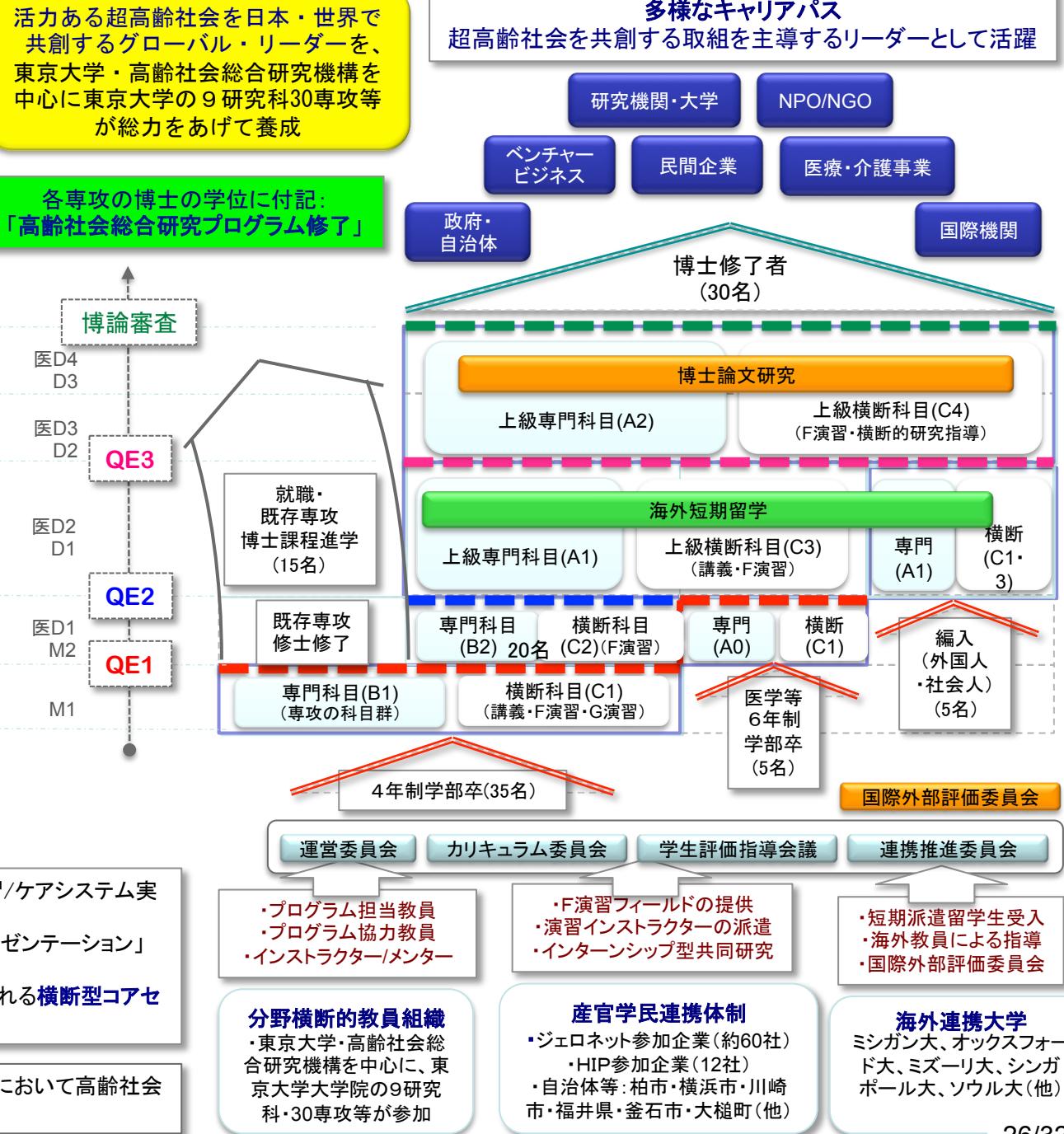
質保証:評価のシステム

- QE1: 学業成績の他、F演習とコアセミナーを通じて適性を評価
- QE2: 修士研究の発表討論を通じた専門的研究能力の評価・研究室選択の助言
- QE3: 研究計画の評価による博論着手資格審査
- 博論審査: 学外審査員を含む公開審査会

カリキュラムの特色

- F演習: 3タイプのフィールド演習: コミュニティアクション演習/ケアシステム実習/インターンシップ型共同研究
- G演習: グローバル演習「英語によるコミュニケーションとプレゼンテーション」「国際共同ワークショップ・スタジオ」
- Cセミナー: 1年次～5年次まで横断科目として継続して行われる横断型コアセミナーを通じた研究指導

参加学生はプログラムの全面的サポートに支えられ所属専攻において高齢社会問題解決に資する博士研究に邁進



參考資料

5. 優秀な学生を選抜する工夫

【優秀な学生の獲得法】

- 学内の学部生に対しては、高齢社会総合研究機構が実施している学部生向けジェロントロジーに関する学部横断講義(受講生は毎年100名以上)を通じて、本プログラムの優位性やキャリアパスの魅力を伝え、優秀な学生を惹きつける。
- 国内外の学外学生に対しては、高齢社会総合研究機構の情報発信機能をさらに強化し、ホームページ等で本学における高齢社会総合研究の進展と本教育プログラムの優位性等を国内外に周知する他、高齢社会総合研究機構の有するネットワークを通じて、海外の関係大学や国内の大学・研究機関・企業・自治体等にポスターおよび募集案内等を送付する。
- 国費奨学生等でない外国人留学生には博士前期課程段階から国費留学生に準ずる奨励金を給付する。参加専攻の多くが既に秋入学を実施していることから、本プログラムも秋入学を実施する。

【優秀な学生を選抜する方法】

- 本プログラム入学時の選抜については、博士前期課程(修士課程)の入学試験の成績の他、高齢社会問題に関する小論文の評価、研究計画の評価、グループ面接を通じた意欲とコミュニケーション能力の評価、学部時代の指導教員の所見等を総合的に判断し、高齢社会問題に関する諸専門分野のバランスにも留意し、優秀な人材を分野横断的に選抜する。
- 入学後の選抜(入学後1年間の基礎教育を経た学年末に行われる選抜試験:QE-1)については、学業成績による評価だけでなく、コアセミナーを通じた研究遂行能力の評価、フィールド演習の際のパフォーマンス評価を通じた課題解決能力・協働能力・独創的発想力・リーダーシップ等の評価、インタビュー(面接)による意欲・コミュニケーション能力の評価、以上4つの面の評価を踏まえ、適格性を総合的に判定する。
- なお、評価については、フィルタリングの観点よりも、コーチングの観点を重視する(学生各人の多面的な能力を評価し、適性を見出し、長所を伸ばし、弱点をカバーすることを指導)。

6. 魅力ある学修研究環境

- ・ 学業成績・能力評価・研究計画・研究実績の評価に応じた3段階(S,A,B)の奨励金の給付。
- ・ 学生が主体的に独創的な研究を計画・実践するための若手支援研究費の配分(研究計画の評価により査定)。
- ・ フィールド演習(F演習)において、多分野の専門家や学生がチームを組んで課題解決に取り組む活動の醍醐味(シナジー効果、目が開かれる思い)を実体験させ、また社会実験型の研究活動の手応え(提案が実社会に具現化されることの手応え)を実体験させること。
- ・ 多くの専攻等に分属する学生・指導教員陣が、自身の専門分野だけでなく、広範な関係分野の文献・資料・データ等にたやすくアクセスでき、また、日常的な議論を深めるための談話・相談・交流スペースともなる「交流ライブラリースペース」を設置する。このスペースには、地理情報・空間情報等の画像データや動画データの処理・加工・表示等についても十分な性能を有するICT機器を必要数配備し、研究成果等のプレゼンテーションやディスカッションが効果的・効率的に行えるプレゼンテーション・ルームも設置する。
- ・ 所属専攻の教員だけでなく、多様な分野の教員や学生とディスカッションするコアセミナーへの参加と毎学期の公開研究発表会における発表の義務づけ。
- ・ 国際学会における研究発表の義務づけ、国際学会等発表旅費の支給。
- ・ 海外短期留学を標準履修コースに組み込み、海外短期留学旅費を支給。

7.学位の質を保証するための取組

- ・ 【QE-1】1年次末：本プログラムの博士レベルへの進学者を選抜する。QE-1にあたっては、学業成績による評価だけでなく、コアセミナーを通じた研究遂行能力の評価、フィールド演習の際のパフォーマンス評価を通じた課題解決能力・協働能力・独創的発想力・リーダーシップ等の評価（演習に張りついて指導する教員および外部インストラクターが評価）、インタビュー（面接）による意欲・コミュニケーション能力の評価、以上4つの面の能力評価を踏まえ、適格性を総合的に判定する。
- ・ 【QE-2】2年次末：所属専攻の博士前期修了要件を満たした者には所属専攻により修士号が授与される。あわせて、専攻横断的修士論文発表会において、高齢社会問題との関わりの観点から修士論文の意義と博士研究の方向性について発表・討論を行い、学生評価委員会の評価を受ける。
- ・ 【QE-3】博士後期課程1年次末のQE-3（博士論文着手資格審査）：学業成績、演習やコアセミナーでのパフォーマンス評価、研究計画の評価、口頭試問により、博士論文着手資格審査を行う。研究計画の評価については、専攻横断的研究発表会において研究計画の発表・討論を行い、学生評価委員会の評価を受ける。QE-3に合格すると博士論文研究に着手することが認められる。
- ・ 【博士論文指導】QE-3合格後：本プログラム参加の同学年次の学生全員参加の専攻横断セミナーに参加し、多様な分野の教員等から研究上の助言を受ける。また毎学期末の博士研究中間報告会で発表・討論を行い、副指導教員を含む多様な分野の教員等から助言を受けるとともに成績評価を受ける。
- ・ 【博士論文審査】博士論文の審査は、所属する研究科・専攻の規定に則り行われるが、並行して本プログラムの修了認定の観点からの博士論文審査を受ける。本プログラム固有の博士論文審査は、公開の博士論文発表会で発表・討論を行い、主査および同一分野の副査1名、異分野の副査2名、および学外の副査1名を含む5人以上の審査委員会による審査を経て、プログラム運営委員会において審査の結果が承認されることにより、本プログラムの修了が認定される。

8. プログラムの評価体制

【成果目標】

第1目標: 活力ある超高齢社会の実現に貢献する優れたリーダーを育てること

第2目標: 活力ある超高齢社会の実現を導く優れた研究成果を得ること

第3目標: 現実社会の問題を解決し活力ある超高齢社会を実現すること

【評価手法】

多面的かつシステムチックな評価手法を導入することにより、多方面からの評価をプログラムの企画・運営に機動的に反映させ、プログラムの不断の改善を行う。

- **学生による評価**: 学生による本プログラムのパフォーマンス評価、学生自身の学修目標達成度評価(毎学期のアンケートと毎学年末のフォーカス・グループ・インタビューの実施)
- **教育スタッフによる評価**: 授業を担当する教員、メンター、インストラクター、インターンシップ派遣先等による、プログラムの内容と学生の資質・能力に関する評価(毎学期のスタッフ・アンケート、演習や研究発表、QEの結果等に関する学生評価指導会議の下での評価検討会の実施)
- **海外短期留学先の評価**: 海外短期留学派遣先の教員による、学生の資質・能力に関する評価(アンケートおよび個別ヒアリング)
- **学界やメディア等による評価**: 広範な分野に渡る関係各学会等による本プログラム関係の研究成果の発表状況とそれに関する評価、学生や若手研究者・関係教員等の受賞状況、メディア等による本プログラムに関する論評等を密にモニタリングし、情報を収集・整理し、ホームページ等で公開
- **修了生就職先の評価**: 修了生の就職先について、就職後1年経過後と3年経過後に、本プログラム修了生の資質・能力・将来性に関する人事担当者等による評価を聴取
- **修了生からのフィードバック**: 長期的には、プログラム修了生の同窓会を組織し、同窓生からのフィードバックを得る

【評価体制】

- **自己評価委員会**: 運営委員会の下に、自己評価委員会を組織し、上記の情報等を整理・分析・評価した、プログラムのパフォーマンス自己評価報告書を毎年度、作成・公開し、運営委員会および連携推進委員会に自己評価を報告し、かつ自己評価を踏まえたプログラムの改善方策等を具申する
- **国際外部評価委員会による外部評価**: 海外委員を含む各界を代表する外部評価委員により構成される国際外部評価委員会による外部評価を隔年実施

9. 期待される波及効果

- ・ 活力ある超高齢社会の日本・世界各地での実現
- ・ 総合的学術としてのジェロントロジーの飛躍的展開
- ・ 高齢社会の新しいライフスタイルを切り拓く新たな産業の創出と新たな社会システムの実現
- ・ 世界をリードする日本のライフスタイル・モデルの発信・伝播
- ・ 世界トップ・アジア随一のジェロントロジー教育研究拠点の確立